

# 教化センターだより

No401

発行日 2020年11月1日  
発行 真宗大谷派大阪教区  
教化センター  
TEL 06-6251-0745  
FAX 06-4708-3278

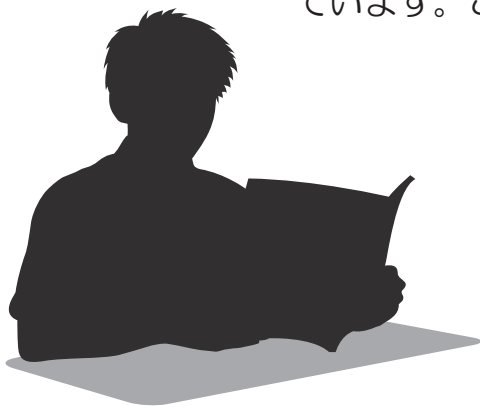
大阪教区教化センター御堂文庫のご案内

## 御堂文庫



## をご利用ください

大阪教区教化センターでは、仏教や浄土真宗の関連書籍を中心に、紙芝居や子ども向けの絵本など幅広い本を蔵書しています。大阪教区内の寺族・門徒の方を対象に本の貸出を行っています。ご門徒の方は手次寺の住職の確認が必要です。



### 利用者のこえ

「正信偈や御文などキーワードで本を探せるから便利だわ」、「20000冊以上の蔵書でなんでも揃っているんだ」、「貸出期間が2週間なのでゆっくり読めるね」、「昔に出た本もあって助かるよ」…etc

— 教化リーフレットの

「活用」について —

4枚の「教化リーフレット」

は、各寺院・教会において「寺報」

や個別に複写しての配布、同朋

会や聞法会での教材としての活

用いただければ幸いです。

— 12月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」……高島大史

「いすれの行も

およびがたき身なれば

とても地獄は

一定すみかぞかし」

リーフレット②

「今月のよび」……三好泰裕

「感染凡夫信心発

証知生死即涅槃」

リーフレット③

「おつもの相談」……西受秀文

『お守り』を付けては

いけなごころ』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおこし」

『象を食べた山犬』

(敬称略)

いずれの行も

およびがたき

身なれば

とても地獄は

いちじょう  
一定すみかぞかし

『歎異抄』

私たち一人ひとりは一  
体どういう世界を生きて  
いるのでしょうか。日常  
の中では自分の意に沿う  
こともあれば、時に思う  
ようにならない出来事が  
起こってきます。そして、  
その時々において喜びや  
悲しみを抱き、また同時  
に過去の思い残しや未来  
への想いをいだきながら  
日々を過ごしています。  
その意味では、私たちは  
時々刻々と変化する自身  
の不確かな心の世界を生  
きながら、ここではない  
どこかを求め、今の自分  
ではない確かな自分を求  
めているとも言えます。

す。そのすがたは、私たち  
が日常において自身の確  
かな自己像を求め、真の  
居場所を求めそのあり  
方が、じつは根底にある  
絶対的な孤独を背景とし  
て生じていることを教え  
てくださっているように  
も思います。「よきひと  
との出会いとは、その根  
本的な孤独が深い悲しみ  
として見出され、そこに  
立ち尽くす自身が「いず  
れの行もおよびがたき」  
凡夫として知らされる厳  
粛な場なのでしょう。  
そして、その孤独が深  
く知らされる時こそが、  
存在の確かさを求めて右  
往左往していた自身が、  
逆に私をして存在せしめ  
られる大地にふれる時で  
あることをお示してくだ  
さっています。

(高島大史)

今月のことば

惑染凡夫信心発  
証知生死即涅槃

惑染の凡夫、信心発すれば、  
生死即涅槃なりと証知せしむ。

りのシャツだった  
ので久しぶり  
に自分で丁寧に  
洗濯しようと思  
い立ちました。  
ついでに買った  
ばかりのブルー  
のTシャツも

『正信偈』のこの二句  
を「煩惱に染められた  
だ人が、如来の本願に出  
会い得たならば、迷いの  
真つ只中にあっても、そ  
の迷いのままで生きてい  
く道があることがはっき  
り」と思い知らされる」と  
今の私は受け取らせて頂  
いております。

洗ってしまおうと一緒に  
洗濯機の中へ入れまし  
た。液体洗剤を入れ、い  
い香りのする柔軟剤も入  
れ、洗濯が終わるのを楽  
しみにしながら待ちまし  
た。

この言葉を聞くと、い  
つも思い出すことがあり  
ます。お気に入りの白い  
シャツを洗濯した日のこ  
とです。普段は洗濯をし  
ないのですが、お気に入り

綺麗になったシャツを  
思い浮かべ、洗濯機のフ  
タを開けると、「エッ！」  
と一瞬固まってしまいま  
した。白いシャツがうっ  
すらブルーになっている  
ではないですか。一緒に  
洗ったTシャツの青色  
が、色移りしてしまっ

のです。ショックでした。  
その後いくら洗ってもお  
気に入りの白いシャツに  
は戻りませんでした。落  
ち込んでいましたが「仕  
方ないやん。そのまんま、  
ほんのりブルーのシャツ  
として着たらええやん」  
との子どもの慰めの言葉  
に気づかされました。

真つ白なシャツが煩惱  
に染まらない在り方だと  
したら、青く染まった  
シャツは煩惱に染まった  
私そのものです。どれだ  
け洗い流そうとしても落  
ちないのに、白く清らか  
であることにこだわり続  
けている。そうではなく  
て、むしろ煩惱に染めら  
れたこの身をそのまま頂  
いて、生きていったら  
いいじゃないかと。

私たちはともすれば

「こうであっては駄目だ」  
「こうあらねばならない」  
と自らを否定し、思い描  
いた自分になろうと努力  
を重ねます。時にその努  
力によって自らを傷付け  
たりもします。また実現  
出来たら出来たでそんな  
自分を誇り、出来ない人  
を非難し、傷付けます。

今、この『正信偈』の  
二句を聞くととき、いよいよ  
如来の願心に目覚め、  
そのまま生きていける道  
を歩めと促されているこ  
とに気付かされます。

(三好泰紹)

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

206頁

『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

23頁

## もしもし相談



“お守り”を付けてはいけない？

## 問

先日娘から旅行のお土産として神社のお守りを貰いました。交通安全のお守りで、車に付けてねと渡されました。

お世話になっていられるお寺からは「真宗門徒にお守りは必要ありませんよ」と教えていただいたことがあります。やはりお守りは持つべきではないのでしょうか。

(43歳・男性)

## 答

娘さんからの土産は嬉しいものです。それが、お守りであることと何であれ、その気持ちを素直に喜ば

れたら良いと思います。問題は、それを車につけて運転する貴方のお気持ちです。

以前に聞いた話ですが、ある方が聞法会のご講師の鞆持ちで同行された時のことです。

会場まで車に乗ってもらおうとした時、先生が突然、「わしはこの車には乗らん」と言い出されました。何故かと尋ねると、「なんやらけつたいなもの(お守り)をぶら下げんと運転できんような危なっかしい車にはわしは乗らん」と仰る。駅まで迎えに来られた方がずいぶん先生をなだめて何とか乗って貰えたが、その時はつきりと外道ということを教えて貰ったと。

外道とは、仏教以外をよりどころにする道、生き方です。

交通安全の「お守り」を付けたからといって、事故に遭わないでしょうか。決してそんなことはありませんよね。いくら貴方が細心の注意を払ったとしても、事故は起こる時には起こります。

そのような現実がわかっていても、都合の悪いこと、嫌なことからは逃げようとするのが私たちの根性です。そのために、お守りやお札、祈祷などに頼ろうとするのです。同じようなことは他にも私たちの日常生活のなかにいっぱいあります。星占いであったり、日の良し悪しであったり…。

私たちは、いろんなご縁の中で生きています。仏教では私たち人間は業縁存在だと教えられます。性別や生まれ育った環境のように自分が意図せず与えられている境遇と、縁によって何が起こるか予測できない、予定通りに事が運ぶとは限らない中を生きています。どんな状況の中でも生きていける無碍の二道が、お念仏によってもうすでに私たちには与えられているのです。

是非、これをご縁に娘さんと共に「聴聞され」本当のよりどころ「を確かめてください」。

(西受秀文)





# 仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈185〉



参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ148)